

リハビリテーション部

Rehabilitation Unit

リハビリテーション部長
松田 秀一



機能訓練から 社会復帰援助まで

当部は、各領域で専門的なリハビリテーション治療を提供するとともに、患者さんが少しでも自立した生活を獲得して社会生活を送ることができるよう、医療、保健、福祉的サービスの提供を目標にしている。

代表的診療対象疾患

脳血管疾患、骨関節疾患（リウマチなど）、神経筋疾患、呼吸疾患、心疾患、小児疾患（脳性麻痺など）、精神疾患（高次脳機能障害、広汎性発達障害）、各内科疾患や各外科術後（移植後など）のADL低下回復など

業務内容の特徴と実績

診療体制と治療実績

リハビリテーション専任医師2名、理学療法士13名、作業療法士5名、言語聴覚士3名からなり、入院患者と一部の外来患者に包括的なリハビリテーションを提供している。年間実施治療件数は、理学療法は59,831件、作業療法は20,813件、言語聴覚は8,125件である。

【理学療法】

理学療法の目的は、身体に障害をもつ人々に対し、社会復帰をめざして主に基本動作能力の改善を図ることであり、そのために筋力や関節可動域などを向上させる「運動療法」をはじめ、「日常生活訓練」、「装具療法」、「物理療法」などを施行している。

【作業療法】

作業療法の目的は、障害をもつ人々に対して主体的な日常生活動作の獲得を援助することであり、さまざまな作業活動（食事動作や排泄動作などのADL・家事動作などのI-ADL・仕事や遊びや学習など生活全

般にかかわる活動）を用いて、治療的介入・指導、就学・就労支援などを行っている。

【言語療法】

言語聴覚部門では、コミュニケーションや食べることに障害を受けた人々に対して、言語・嚥下訓練、検査、助言、指導などを行っている。



高度先進医療の取り組み

各部門で研究を展開

①理学療法部門

各種評価機器（筋力測定器、筋電図、超音波など）を用いた運動機能およびADLの定量的な評価を行い、治療効果の検証を実施。

②作業療法部門

頭部外傷による高次脳機能障害・発達障害患者を対象に専門的プログラムを導入し、就労・学習支援に関するリハビリテーションシステムを構築。

③言語聴覚部門

耳鼻科・栄養科など他部門と協力のうえ、嚥下機能障害への総合的なアプローチ法の研究・検討。